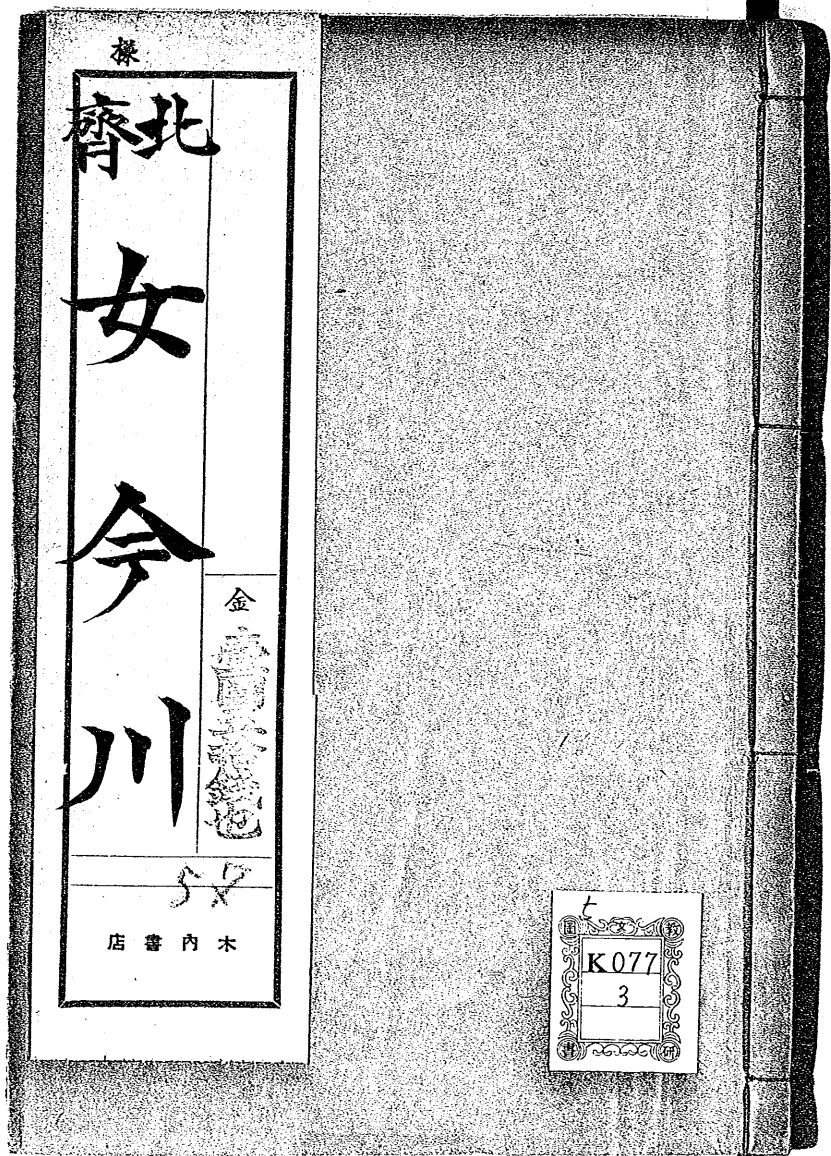




A0

72



花の枝をあたふらんさひせられて
 けいもめてゐるもあられあそれ世の
 女ももておとこもあはれぬ人ぞも
 おいぢたふれゐる意のうとくもあは
 ふもいひてひもあはれあはれぬ
 さもあはれぬあはれぬもあはれ
 もあはれぬあはれぬもあはれぬ
 めのあはれぬあはれぬもあはれぬ
 あひのあはれぬあはれぬ

源 隆



今川 いまたがわ 准 のり 女 め 氏 うぢ
戒 かい 制 せい 綱 きょう の 條 じょう
一 ひと 帯 おび し し ん しん ぞ ぞ 新 あらた 加 か へ へ る る 女 おんな 乃 なり
ま ま ら ら ね ね ぬ ぬ べ べ の の な な ら ら ぶ ぶ 事 こと
一 ひと 若 わ 女 にょ 母 ぼ 重 おも 苗 な の の 又 また 寺 てら 人 ひと

系 けい り り 樂 たの し し む む 事 こと
一 ひと 少 すく き き 道 みち ち ち り り へ へ 改 あらた め め 敗 くは
一 ひと 小 せう 事 じ とも とも 思 おも ふ ふ 一 ひと 考 かう
如 ごと く く 見 み 同 どう 氏 うぢ 能 い 侍 さむらい す す 事 こと



一 大變を起す

為人做事

一 主親友係父母と兄弟

忠孝の道疎よかる事

一、^ち支^と子^と一^と之^と日^と月^と年^と三^と

天^{てん}乃^{のう}を^を怨^{おん}ぢ^ぢも^も也^や

一 道 どう
背 そむき
茶油 ちあぶら

を 羨 うらや ん 願 願 が ぶ 事

二五五 無名氏

輕
路



一 揺びふ長^{ちやう}或^{ある}音^{おと}も聴^き
或^{ある}見^{けん}抱^おとされ好事^{こうじ}
一 種^{たん}意^いあゝと嫉妬^{しど}のなや
人^{ひと}れ朝^{あさ}を恥^ちぢたり
一 女^{にょ}利^り根^{こん}うきひ美^み

事^{こと}に枕^{まくら}人^{ひと}と羨^{あやま}たり
一 人の相中^{あいちゆう}は終^{しゆう}と合^あむれ
然^{しか}をいふと已^{おの}れあひ事^{こと}
一 衣^い裳^{しやう}道具^{どうぐ}あのを素^すと
そゝ白^{しろ}仕^しひ見^{けん}音^{おと}ふ事^{こと}



一 貴賤をわくの法阿^{きん}を^{せん}
女^をも氣^き法^{ぽう}代^{だい}佛^{ぶつ}く事^{こと}
一 人^{ひと}忠^{ちゆう}北^ひを^を河^かも^も我^{われ}り^り
智^ち河^か祭^{さい}と^とわ^わり^りふ^ふ事^{こと}
一 出家^{しゅつが}沙^{しゃ}門^{もん}と^と對^{たい}面^{めん}と^とす^す

一 以^もつと^と意^い側^{がわ}を^をく^くな^なる^る事^{こと}
一 我^{われ}と^と際^{さい}と^とを^をあ^あむ^むり^り
一 穠^{わう}河^かを^をい^いふ^ふ事^{こと}
一 下^げ人^{にん}乃^の皆^{みな}是^{これ}病^{びやう}と^とす^す
一 仕^しや^や河^かを^をい^いふ^ふ事^{こと}



一 舅姑に疎束かゝる人の
譏諍を知らざる事
一 継子小使も他人を
嘲哂を恥ざる事
一 男をあるは継合する事

一 親類ありて新に縁にあらば
道と守ふ人を嫌ひあふ
偏ふ志をある事
一 人を見れば我を機嫌に
但しつゝと稱する事



一身の垢らうふれあひて

清く事

春は佳き事にはあはれ
給ふ事と女の心はあはれ
珠の心はあはれ

花の心はあはれ

先家の心はあはれ

清く事

をてはあはれ

一とて天の陽あはれ



ととと読みちなり地を法
してわぐをいそふるはと
陸と陽ふ法を事と地
月夜の道理なるゆゑ夫婦
のしらに地り登るは地

まを天れども教すむ
さういふは別ちて地の
也これい初成りて人を
復し直なるは明やま
るは初なるは懐也



西へ行く友に告ぐ
今つらき世に水はあ
れぬは人々も
乃友に告ぐ事
実なる事

西へ行く友に告ぐ
今つらき世に水はあ
れぬは人々も
乃友に告ぐ事
実なる事



と知りぬるに其人の
殊に款む米氏具を親
む知ふと云ふは阿婆バ
識年恥ふと云ふ事なる
必ふ家と礼と女を嫁ぐ

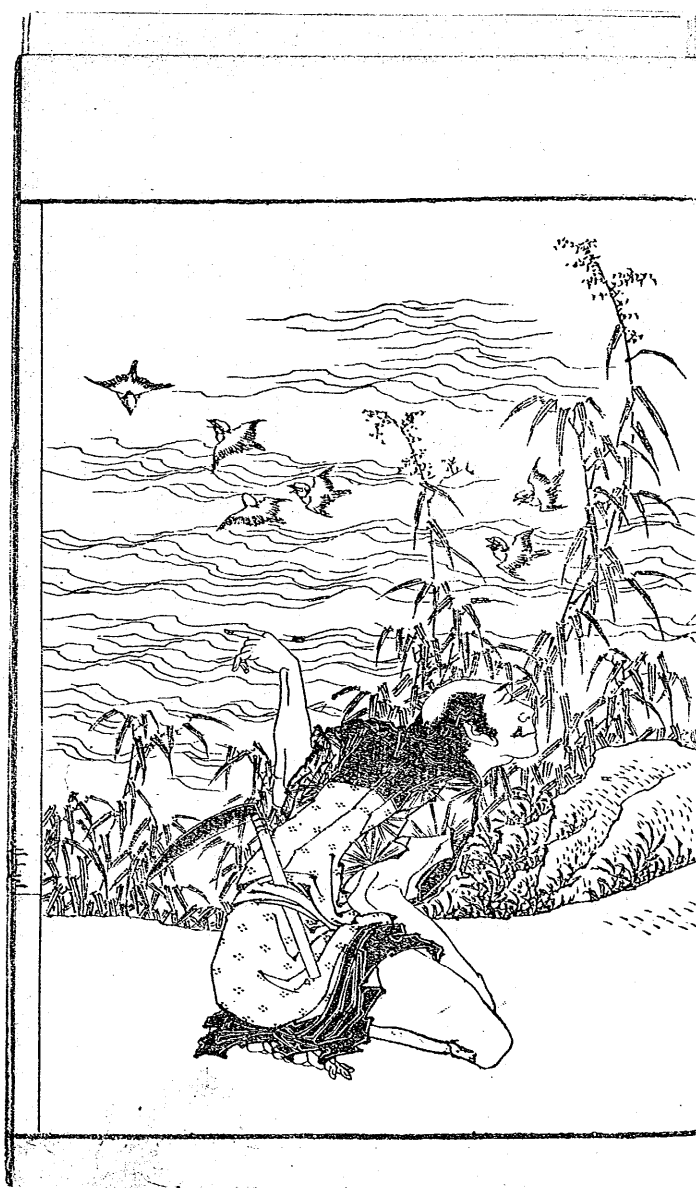
事法ある生貨多きを
とらふと云ふは朝々歳
と云ふれども昔め胸を
て仁義礼智信乃忠孝
何れも人乃行ふ事なり



ある親^{おや}の教^{しん}どんを
あへて若^{わか}男子^{なんし}を師^しと
撰^{えら}ぶ是^{これ}を女^め子^こは
とてそれ^{その}を教^して
おゝなうとや夫^{そとこ}女子^こは

いづれを^{おとこ}まの^い家^けより^いて
あり男^{おとこ}姑^こふは^い子^こを^い事^{こと}な
し親^{おや}に^い許^{ゆる}ふ止^{とど}まる^い誓^{ちか}の
うらありな^いあ^いる^い答^{こた}ひを
はるあ^いを^い中^{なかつ}に^い而^{しか}に^い





ひまろ河原次半生も賊と
もあてゝ居人お致なし
ていふあつた儘さふそのねを
けのんれ音あつたは
んせわの徳人のあふ

くち入る音あつたは
とも諫めて来りしあつた
まづりのあつたあつた
あつたあつたあつた
あつたあつたあつた



と照つ 結ぶてく 管叔
意然る人を懐くまへ
小治むるは侍れ我身若
うもておこるる奴婢を
とす、僻事あるや、悪人

と文若く人をもて事
これを知りて、これ教へ
もて、教へて、世間を
清く、誠り、口惜み、
おと、あつち、や、能く、



賢

2

女
今
川
終